



市長 からの 手紙

90 平成30年度決算について

9月議会が開会し、例年どおり前年度(平成30年度)決算認定議案を提出しました。決算の概要については11月10日発行の広報川越でもお知らせする予定ですが、今回はその内容について少しお話いたします(金額については、億円未満は切り捨てです)。

平成30年度決算の規模は、歳入1,127億円、歳出1,096億円、実質収支(歳入－歳出－令和元年度への繰越金)は28億円の黒字です。

目的別に見た歳出の中身は、民生費(高齢の方や障害のある方の生活支援、保育所関係の費用など福祉のための費用)が一番多く488億円で全体の44%を占め、平成29年度より約30億円増です。

市債については、市債(借金)は94億円、公債費(借金返済額)は100億円で、平成30年度末の市債残高は1,033億円(うち臨時財政対策

債が354億円)です。10年前の平成20年度決算では市債残高は811億円(うち臨時財政対策債が211億円)でした。この10年間で市債残高は222億円増(うち臨時財政対策債が143億円増、建設事業債等の市の借金が79億円増)となっています。

令和元年度の一般会計当初予算は1,115億円ですので、市債残高が当初予算とほぼ同じ額になっています。川越市がコントロールできない臨時財政対策債が増えてしまうことは、大きな問題であると考えますが、いずれにしても川越市においては、今後しばらくは市債発行についてより慎重に臨みたいと考えています。

臨時財政対策債は、国が地方交付税として地方に渡すべき金額の一部を、地方が市債という形で調達することとし、その返済分を後年度に交付すべき地方交付税の中に含めて地方に配分するというものです。全国市長会、中核市市長会その他地方団体はこぞって、臨時財政対策債を早く廃止すべき旨を国に要望し続けていますが、廃止の方向性が見通せていません。

川越市長 川合善明

こんなこともやっています！
図書館の仕事 その1

中央図書館 ☎222-0559

Fax 224-7822

市立図書館では、本やCDを貸し出したり、郷土資料を集めたりとさまざまなことを行っています。このコラムでは、図書館の仕事について紹介していきます。

ブックトークを行っています

市立図書館では、市立小学校の3年生全クラスにブックトークを行っています。ブックトークとは、ある一つのテーマに沿って何冊かの本を紹介することです。昨年度は、32校93クラスで行いました。「今日はどんな子どもたちかな?」「興味を持ってくれるかな?」と毎回ドキドキしながら学校に出掛けます。



テーマは「くいしんぼう」

ブックトークの目的は、本の面白さを伝えること、聞き手にその本を読んでみたいという気持ちを起こさせることです。シナリオを基に本の世界を子どもたちに伝えますが、担当する職員は、子どもの本を読み込んで幅広い知識を持っていないとシナリオは作れません。子どもたちの興味や好奇心はさまざまです。思ってもみないところで歓声が上がることもあります。

終わると、先を争うように本を見ようと、子どもたちが集まります。「この本読みたいー!」と子どもたちから言われたときのうれしさは、格別です。